

税金で救われた兄

広島大学附属三原中学校 2年 西川 颯祐

去年の暮、税金のありがたさを実感する出来事があった。僕の大好きな兄が急病のため救急車で搬送されたのだ。兄には持病があるため最寄りの病院では対応できず、広島市にある病院まで救急車で運んでもらった。もし救急車がなければ痛みと苦しみながら自家用車で広島市の病院まで行って、それからさらに待ち時間にも痛みを耐え、後遺症が残ってしまう可能性があった。救急車で搬送されることにより痛みを耐える時間が最小限となり、後遺症も残らずに数日で退院することができたのだ。母が救急車に同乗したのだが、後から話を聞くと、救急車で走行中、道路にいる他の車がすぐに道を譲ってくれて感動したといていた。救急車でなければこんなことはできないと思う。本当に感謝の気持ちでいっぱいだ。

このように、兄を救ってくれた救急車にかかる費用は税金で賄われている。この出来事により、普段は意識していないが実は僕たちの生活はかなりの部分が税金によって支えられていることに気づいた。身近なところでは僕たちが受けている義務教育もその一つだ。医療費については、僕の住んでいる自治体には乳幼児医療という制度があり、中学生までは医療機関で受診する際、一日の負担額は最大五百円だ。それを越えた部分は主に税金で賄われている。他にも消防署や警察、ごみ収集など挙げればきりが無い。このことを知ってから、税金は嫌なものではなく自分たちを支えてくれる大切なものだというように意識が変わった。

僕たちが当たり前だと思っているこれらのことは、当たり前なのではなく、ちゃんと税金を納めている納税者のおかげで成り立っている。しかし、現在どんどん少子高齢化が進んでいる。このままいくとどんどん一人への負担が大きくなり今まで当たり前だと思っていたことが当たり前ではなくなるかもしれない。そうならないためにどうすればよいか？ 僕が考えたのは、消費税率を現在の10%からもう少し引き上げることだ。消費税は特定の世代に負担が集中せず、皆で平等に負担ができるし安定的な税収が見込めるからだ。だが、最近は色々なものが値上がりしていて、もし消費税が上がったら、消費者がものを購入しなくなり、かえって税収が減ってしまうかもしれない。単に増税すれば問題が解決するわけではなく、色々なバランスを考えなければいけないのだと思った。これ以上は今の自分では経験と知識が足りなくてよい解決策が思いつかない。しかし、これからしっかり勉強し、知識を得て色々な人たちと話し合うことによって、この幸せな生活が続くようにできるかもしれない。そのためには当事者意識をしっかりと持って考えたいと思う。

これからの社会を支えるのは僕たちで、そのために今税金を使って勉強させてもらっているから。